

## おわりに

本報告書は、『「主体的・協働的な学び」を実践できる教員の養成 —アクティブ・ラーニングを導入した新たな学習指導方法の開発—』プロジェクト5年目の活動報告内容をまとめたものである。各4本柱の主な成果をまとめると、6ページの実績から次のようになる。

### ①アクティブ・ラーニング授業が実践できる教員養成プログラムの開発

○本学教員のAL授業実施率（AL授業を導入した授業コマ数／担当授業コマ数）は、学部で74.1%、大学院で85.7%であった。

○本学学生が“能動的学び”ができているかを、以下の問によるアンケートで調査した。

問1「授業で提示された問題・参考文献・資料などを自ら検索・参照した上で、自分で問題点を深く考えた。さらに、その考えに基づき行動した。」に対して69.2%であった。

問2「授業を受けた上で、自ら関連項目について文献やインターネットなどで調査し、新たな思考を展開した。さらにその思考に基づき行動した。」に対して70.8%であった。

### ②アクティブ・ラーニング授業が実践できる現職教員研修プログラムの開発

新型コロナウイルスの影響を鑑みて、本学での教員免許更新講習（対面）は中止となりました。

### ③アクティブ・ラーニング授業が実践できる大学教員の養成プログラムの開発

FD集会を3回開催（本プロジェクトの共催を含む）した。本プロジェクトの主体で開催した「教職実践演習における授業の実践例」に参加した大学教員は39名（対面：11名、Teams：28名）であった。

### ④アクティブ・ラーニング授業の指導方法・教材の開発、推進・拡充

AL授業を支援するためのICT機器貸出しシステムを利用した授業は前期は13コマ、後期は137コマであった。前期中、ALルームは新型コロナウイルス感染拡大防止のため解放しなかった。後期は、教員1名、学生1名が来場した。さらに、ALルームを利用して「GIGAスクール関連アプリ体験」（3/3～3/23）を開催し、教員1名、学生10名が来場した。

本プロジェクトの活動は、多くの方々の協力に支えられています。コロナ禍において学外・学内の多くの先生方にFD集会で講演や発表をしていただきました。今後もプロジェクト推進に多くの方々のご協力が必要となりますので、よろしくお願い致します。

プロジェクトメンバー代表  
伊東 正人